

リーズ・トリニティ大学 (イギリス)

2セメスター目に入ってから実用的な授業がさらに増えた。現在は、スマートフォンを使って動画を撮影し、編集するということを課題として学んでいる。ジャーナリストは実際に現場に足を運んでそこで起きていることをレポートするという仕事なので、街やキャンパスの中での様子をレポートするというテーマで課題に取り組んでいる。時には取材をしたり、また必ず撮影許可をとるので、コミュニケーション能力や、恥ずかしがらずに声をかけるようなことも率先して行わなくてはならない。また、スマートフォンという身近なカメラを使って課題を行うことは非常に楽ありがたいが、(本格的なカメラを使うとなると、操作に慣れるので時間がかかってしまうと思う。)スマートフォンを固定する大きい機材を持ち運ばなくてはならず、また動画を編集したり字幕をつけたりなど、やらなければならないことはたくさんある。

ジャーナリズムの専門的な学びを経験することを通して、ジャーナリストという仕事は本当にいろんなことをしなくてはいけないということを実感している。そのため、ジャーナリストになるためには、書くこと、話すことを始め、編集やリサーチしたりなど、いろいろなことを苦と思わずにできなければいけない。授業の中で講師の先生も言っていたが、「自分は書く仕事をしたい」と思っても、就職した後にどんな仕事を任されるかわからない。大学にいるうちに自ら手を動かしていろいろなことを実際にやってみることができるといことは、非常に恵まれた環境にいると思う。

ナバラ大学 (スペイン)

1月からずっと快晴の日が多く、天気にも恵まれ春の暖かさの1ヶ月でした。なので友人達と公園でピクニックや昼休みなどは校内の芝生で太陽を浴びながら友人達とランチを楽しんでいます。Parque de Yamaguchiという公園では桜の木が植えられており、もうすでに満開近いです。それを機に友人達とお花見もしました。また、こちらでは桜の花にととても似ているアーモンドの木もたくさん街中に植えられており、春らしい街並みでとても素敵です。先日はパンプローナからバスで20分ほど離れたMonrealという小さな村へ登山に友人4人と行きました。往復4時間程で途中崖のような岩をチェーンを使って登るような道もあり、登山初心者にはとてもハードでしたが登り切った際の景色はその疲れが吹っ飛ばすくらい綺麗でした。ナバラ州はとても山の自然に恵まれているので少し遅いですが、これから毎月登山に友人達と行きたいと考えています。

オレブロ大学 (スウェーデン)

新学期の学生とも仲が深まり、新学期に入ってから不安定だった生活、交友関係が安定してきた。半年以上住んできたため、日本とスウェーデンの価値観の違いやシステムの違い、教育の違いなどを肌で感じるができる。それと同時に日本とスウェーデンの良さ、悪さが垣間見えるようになった。スウェーデンに来てから、日本の文化や価値観を他国目線で見ることが多くなり、違和感があるがこれまでと違った観点から物事を見ることができて面白い。残りも少なくなってきたため、限られた時間を精一杯楽しみたい。

ゲーテ大学

(ドイツ)

今月は期末試験があったので、毎週1回ドイツ語と日本語を教え合っているタンデムパートナーから、日本学の口頭試験があるから手伝ってほしいと言われました。そこで、日本学を学ぶ人たちとの新たな出会いがありました。日本語を英語で教える大変さを感じました。ドイツ語を話す機会も増えたのでとても有意義な時間でした。

高麗大学

(韓国)

1月に申し込み行っていた、1か月弱のスポーツビジネス学部の学生による運動プログラムは、強度が高くハードだった分、プログラム開始前と終了後にジムで測ったインボディによると筋肉量が増えていて健康的な体に変化していたので嬉しく思いました。このプログラムは好評だったため2月も続けたい人は続けられるという話も出ていたのですが、コロナウイルスの影響で延期になってしまいました。その分ルームメイトとプログラムで行っていたように自分たちで運動をしていました。

冬休みで時間がある2月に、私が高校の時に姉妹校訪問で訪れた際に出会った韓国人の友達に4年ぶりに再会することができました。その友達はソウルの近くに住んでおり、私は離れた所に住んでいるためこれまで機会を作ることが難しかったのですが、連絡を取り合いついに再会を果たすことができ本当にうれしかったです。韓国の他の大学での大学生活について聞いたり、これまでどんな風に過ごしていたのか、また他の友達は元気かなど話し、とても楽しい時間でした。友達は私が今韓国に留学に来て生活していることにとても驚いており、またその友達は日本に行きたいと強く思っていて、ワーキングホリデーをしたいと考えているほどだと言っていました。また、日本で会えるよう連絡を取り合いたいと思いますし、韓国でも帰国前に会いたいと思っています。

オウル大学

(フィンランド)

博士課程向けの講義を2つ受けたことで、勉強に割く時間も今までより増えた。ただ一方で、オウル大学での生活・勉強にはすでに順応しているため、時間の無駄なく過ごせた面もある。この月次報告書では、講義で行った課題に関して記述する。

・ Institutional Context of Global Business

スライド形式の講義を10回行い、それを踏まえた中間レポート (Leaning Diary) をA4、4ページをペアで作成。その後、6対6のオーラルディベートに向けグループワークへ移行。それぞれの対戦ペアごとにテーマが与えられた。他5人の仲間と、ディベートに向けた戦略レポートを8ページ分や発表スライドの作成など、本番に向け4週間ほどかけて準備をした。本番のディベートでは約1時間のディベートをし、勝敗が決まる。ちなみに敗北した。

・ Perspective on Innovation Management

スライド形式の講義が10回。毎回の講義で15分ほどのテーマに沿ったグループワークがあった。課題は、講義最終日に6ページ分の感想文提出のみ。毎回のグループワークは即興で議題が出されるため、発言準備をする暇がなく、苦戦する時もあった。